

<付記>

母の日に聞く、女性の健康意識調査
<女性の健康診断受診の実態と意識>
調査の概要

■調査の目的

婦人科受診の実態と受診抵抗感や受診阻害要因などの婦人科受診に関する女性の意識を明らかにし、婦人科の検診を促進する要素を探る。

■調査の対象

- ① 年齢（20～39歳）
 - ② 未婚、既婚（子供有り）、既婚（子供無し）
 - ③ 居住地（政令都市／その他）
- 計600サンプル

■標本規模

	20～24歳		25～29歳		30～34歳		35～39歳		合計
	政令都市	その他	政令都市	その他	政令都市	その他	政令都市	その他	
未婚(子供無し)	25	25	25	25	25	25	25	25	200
既婚(子供有り)	25	25	25	25	25	25	25	25	200
既婚(子供無し)	25	25	25	25	25	25	25	25	200
合計	150		150		150		150		600

■調査方法

インターネット定量調査

■調査の実施期間

2008年3月21日～3月23日

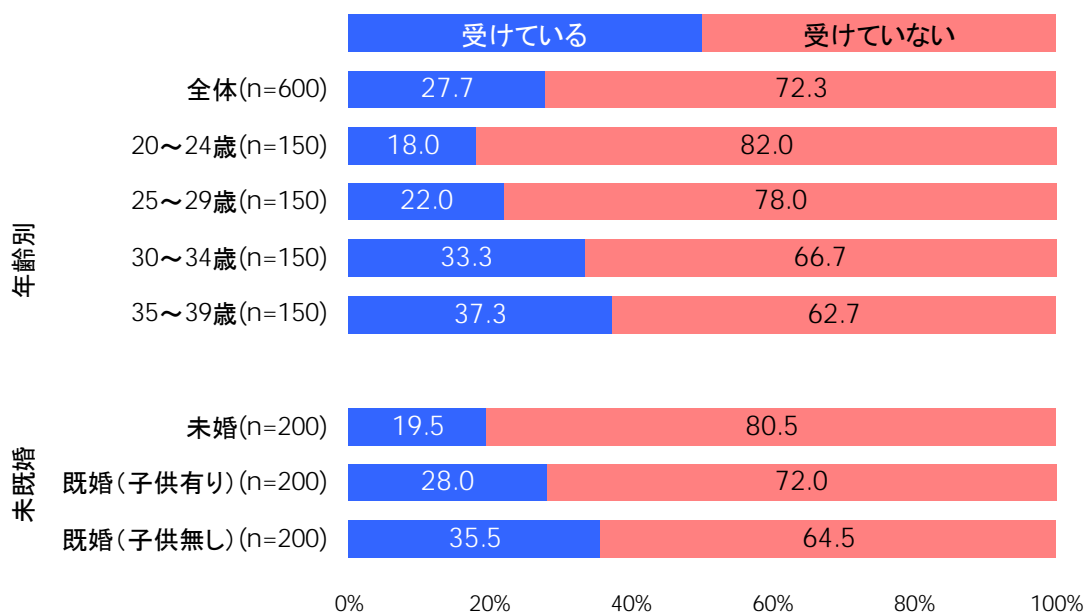
以上

※ここでの「かかりつけ医」とは、日頃から健康相談をしたり、病気になったときに初期の医療を行う医院や医師のことです。また、「婦人科」とは、大学病院や国・公立病院内、開業医の全てを指しています。

【グラフ1】

■ 定期的な婦人科系検診の受診率は全体の27.7%。

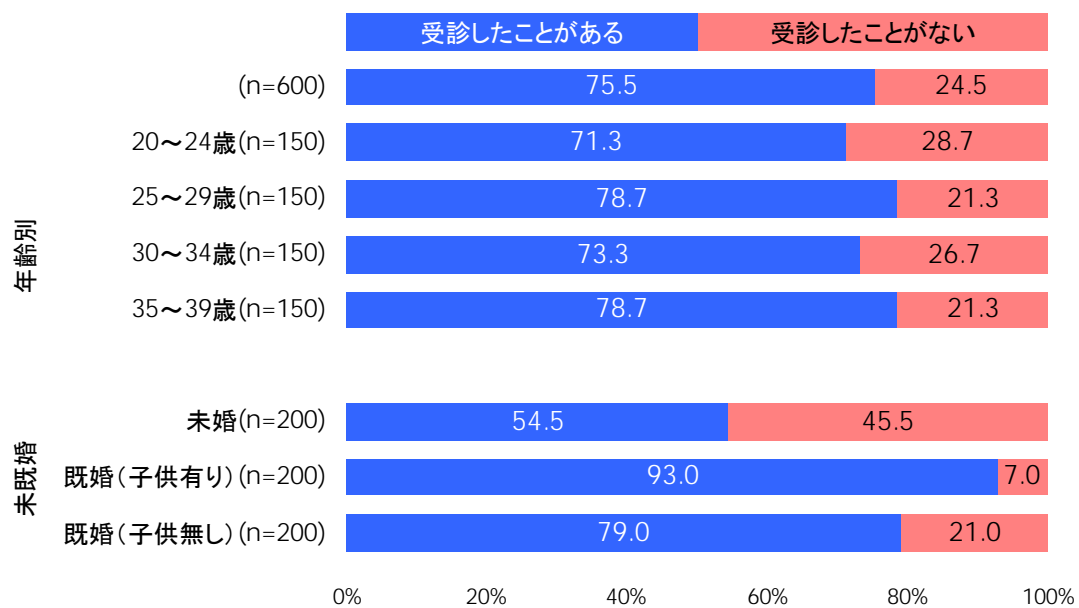
<婦人科系定期健康診断 受診状況>



【グラフ2】

- 定期的な婦人科系検診の受診者は 27.7%にもかかわらず、婦人科の受診経験者は 75.5%と多い。

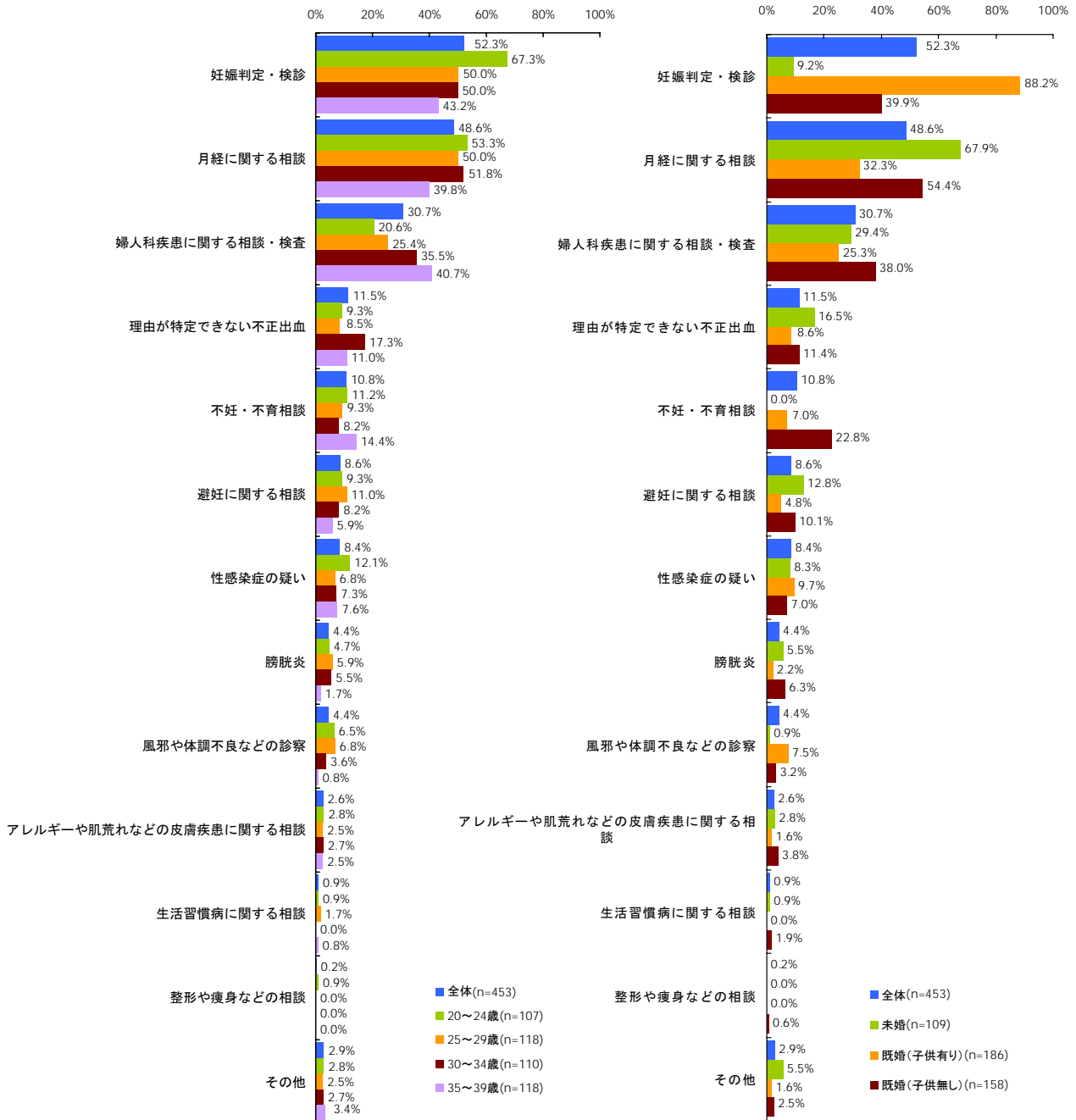
<婦人科受診経験の有無>



【グラフ3】

■ **婦人科受診経験者(全体の75.5%)の受診理由は、「妊娠判定・検診」(52.3%)、「月経に関する相談」(48.6%)、「婦人科疾患に関する相談・検査」(30.7%)が多い。**

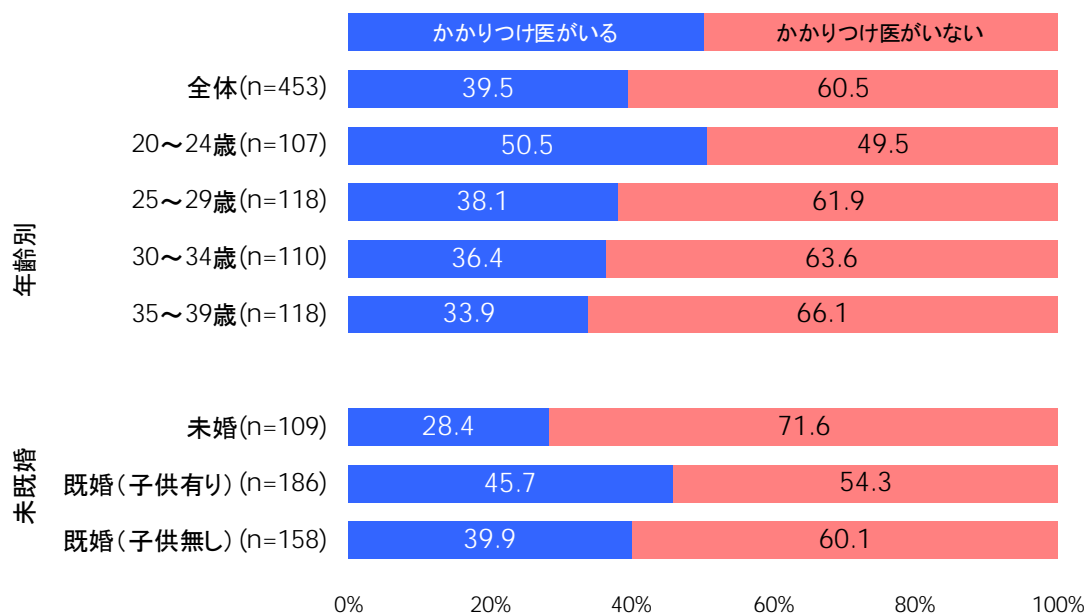
<婦人科 受診理由>



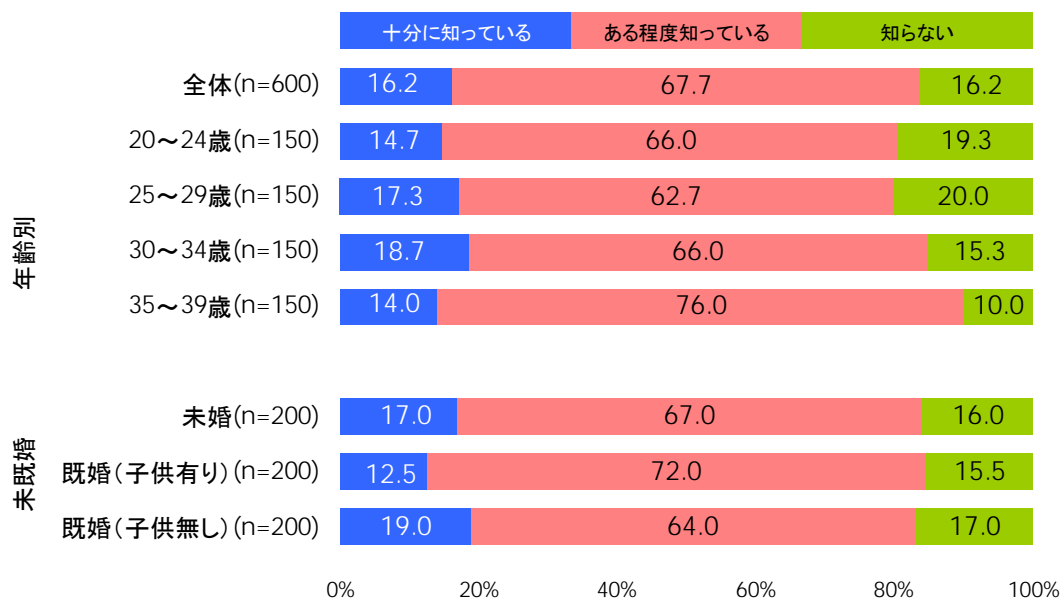
【グラフ 4】

- 婦人科受診経験者(全体の 75.5%)の 39.5%に、「婦人科のかかりつけ医がいる」。「20 歳～24 歳」では 50.5%が、「かかりつけ医がいる」と回答、「婦人科疾患」発症の若年化傾向の認知度も 80.7%と高い。

<婦人科かかりつけ医の有無>



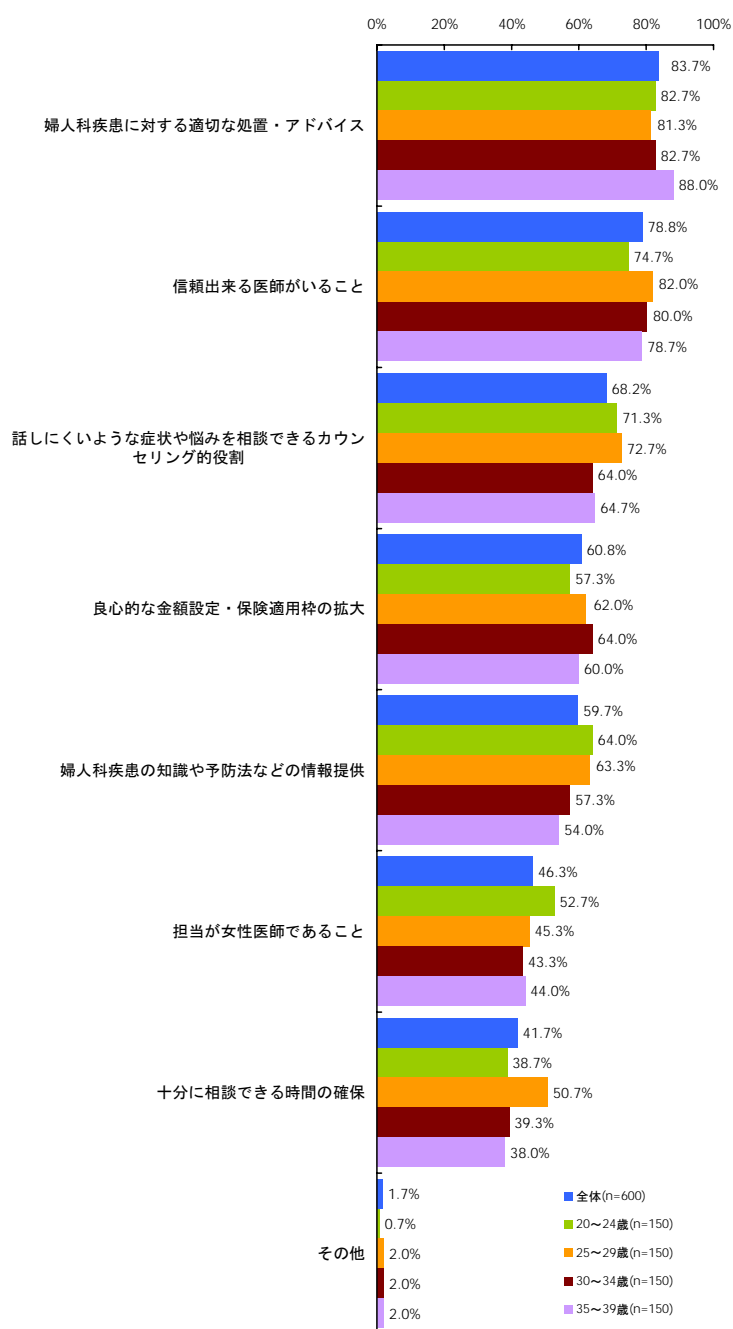
<「婦人科疾患」発症の若年化傾向 認知度>



【グラフ 5】

- 婦人科に期待することは、「婦人科疾患に対する適切な処置・アドバイス」(83.7%)、「信頼出来る医師がいること」(78.8%)、「話しにくいような症状や悩みを相談できるカウンセリング的役割」(68.2%)。

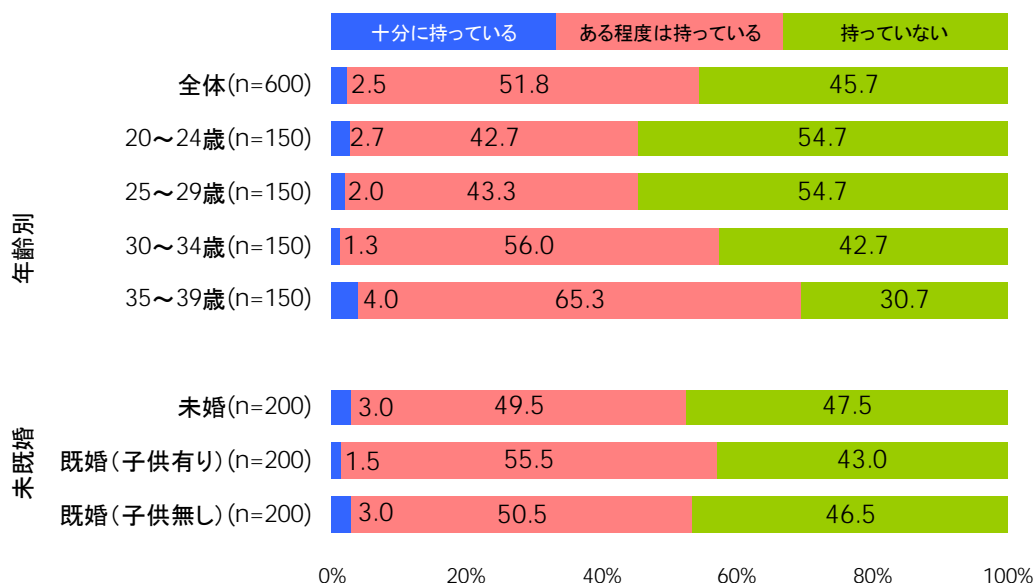
<婦人科への期待内容>



【グラフ 6】

- 婦人科疾患(乳癌や子宮癌など)についての知識は、全体の54.3%が「持っている」と回答。しかしながら、子宮頸癌の原因がウイルス感染によることについては、75.3%が「知らなかった」。

<婦人科疾患に対する知識度>



<子宮頸癌のウイルス感染 認知度>

